

■児童・生徒の学力の状況

令和7年全国学力・学習状況調査の結果から、国語科では正答率全体は全国平均を1.2ポイント上回った。特に知識・技能の観点では東京都平均を上回り、基礎的・基本的な知識・技能の定着が確認できる。記述式問題、特に複数の資料から情報を統合して自分の考えを記述する設問は正答率41.3%と低く、大きな課題である。

算数科では、全体の正答率は全国平均と同水準であった。近年課題であった、「B 図形」領域は全国平均を上回った。「A 数と計算」「D データの活用」領域の正答率は6割を超え一定の成果がある。記述式問題の正答率は3割で、選択式・短答式との差が大きい。筋道を立てて考え、その過程を式や言葉で説明する力に課題がある。2教科共に無回答率が高い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 児童の学ぶ意欲を高め、基礎的・基本的な学力の向上を図るため、児童一人ひとりの特性と能力を踏まえた指導に一層努める。
- 根拠を示し、筋道を立てて自らの考えを説明する力を育てる時間を十分に確保する。
- タイピング能力等、ICT活用に関する基礎的技能に不均衡が感じられる。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

児童の学ぶ意欲を高め、基礎的・基本的な学力の向上を図るため、児童一人ひとりの特性と能力を踏まえた指導に努める。全ての教科指導において「板橋区授業スタンダード」に基づく授業革新を基に指導方法の改善に努め、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業革新を進める。また「板橋区 授業スタンダードS」に基づきイェナプラン教育の要素を取り入れた自己調整型、自由進捗型の学びに取り組む。

- ①各教科や総合的な学習の時間の中で、「問題解決型の授業」を積極的に取り入れ、協働して学び合う態度を育てるとともに、生涯にわたって学び続ける意識と、粘り強く探究する態度と学び続けるための資質・能力を養う。「総合的な学習の時間」においては、板橋区全体を学びのキャンパスとし、地域の特徴を生かした探究型の授業を展開し「主体的・対話的で深い学び」を追求する。
- ②ICTを活用した教材や資料の提示、発表方法の工夫などを行い、児童の学習意欲を高めさせる。また、児童、教師、保護者・地域が学び合う協働学習を取り入れ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、授業の質を向上させる。
- ③「東京ベーシックドリル」「A Iドリル すらら」を活用した学力向上に向けた放課後の補充的な学習を展開させ、全ての学年で朝モジュールの時間を活用した読書習慣と、長期休業中の補習を利用しながら、粘り強く学習に取り組む態度を身に付けさせる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型の授業展開の創造	ICTを活用した授業づくり	補充的な学習活動の展開
<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な学習過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付けながら、児童が課題解決場面で自ら問いを立てたり、目標を設定したりできる授業計画を、全教師が立案する。 ○問題解決の過程における学びの共有を適宜図ると共に、そうした過程に生じる協働的な取組を大切にし、児童のコミュニケーション能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一台端末を活用した学びの個別最適化を促し、児童の情報活用能力を育成。 ○「A Iドリル すらら」を使用した家庭学習の推進を図り、学びの個別化を図る。 ○児童一人ひとりの興味や関心に基づく追究を支援し、学びの複線化を保障する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝モジュールの時間を活用し、基礎学力の定着を図る。 ○放課後補習教室(たけのこタイム、パワーアップ教室)を毎週開催し、学校全体の学力向上を図る。 ○朝モジュールの時間を活用し、読書活動に親しませると共に、板橋区電子図書館を含む学校図書館を活用した学習活動を全学年が設定する。

■「MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035-」に示された5つの力の育成に向けた具体的な取組

自分らしく進む力 ゼロから切り拓く力	認め合って生きる力 つながり助け合う力	自ら行動を起こす力
<ul style="list-style-type: none"> ☆イェナプラン教育の要素を取り入れた自己調整型、自由進捗型の学びに取り組む。 ☆「A Iドリル すらら」等を活用して、児童一人ひとりの学習進度に合わせた学習の機会を保障する。 ☆自分に合った学び方を調整することができるデジタルとアナログのハイブリッド化を進め、端末をより有効的に活用できる場面を吟味する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆児童が共に学び合いができる話し合い活動を重視した協働学習を低学年の「生活科」から実施し、授業を充実させる。 ☆特別な支援を必要とする児童への教育活動を充実させるため、特別支援教育校内委員会が中心となり作成した「個別支援計画」と「学校生活支援シート」に基づき、保護者やスクールカウンセラー等と連携した指導を進める。 ☆校内スペースとしての「f-youth」「ふなっこの港」の更なる充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆板橋区全体を学びのキャンパスとし、地域の特徴を生かした探究型の授業を展開し「主体的・対話的で深い学び」を追求する。 ☆学びのエリアである志村第五中学校と「めざす子ども像」について共通理解を図り、系統性をもった教育活動を進めていく。 ☆朝モジュールの時間や週に1回の図書時間の時間を活用し、児童に読書習慣を身に付けさせると共に、板橋区電子図書館の活用を促す。